

# チャペル週報

No.14

2017.7.10 ~ 7.13

平和を実現する人々は、幸いである、  
その人たちは神の子と呼ばれる。

(マタイによる福音書5章9節)



原田の森 ブランチ・メモリアル・チャペル (現 神戸文学館)

関西学院宗教センター

---

☆ チャペル・スケジュール ☆

---

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

---

7月10日(月) 神 「震災を覚えて」礼拝⑫ 神学部メガホンプロジェクト  
経 経済と人間⑧ 宮 脇 幸 治 (経済学部准教授)  
人 中 野 陽 子 (人間福祉学部教授)  
理 ALL讃美歌プログラム②  
聖和 聖書物語「エリヤの弟子エリシャ」

---

7月11日(火) 神 「パンも言葉も」 森 本 典 子 (神学部非常勤講師)  
文 春学期チャペルパーティー  
社 「自由」って何だろう?⑦ 井 上 智 (神学部助教)  
法 大 宮 有 博 (宗教主事)  
経 経済と人間⑨(最終回) 藤 井 和 夫 (経済学部教授)  
商 禪 野 美 帆 (商学部准教授)  
国 学期末をむかえて① 平 林 孝 裕 (宗教主事)  
理 ALL讃美歌プログラム③  
総 Sanda Student Volunteer, SSV  
教 岡 本 哲 雄 (教育学部副学部長)

---

7月12日(水) 神 私にとっての神⑭ 柳 澤 田 実 (神学部准教授)  
社 「自由」って何だろう?⑧ 打 樋 啓 史 (宗教主事)  
法 Christian Morimoto Hermansen (宣教師)  
経 学期末を迎えて・夏休みを前に 舟 木 讓 (宗教主事)  
商 Chapel in English Curtis Rigsby (宣教師)  
人 大 和 三 重 (人間福祉学部長)  
国 学期末をむかえて② 志 甫 啓 (国際学部教授)  
理 ALL讃美歌プログラム④  
総 フラサークル Mahalo  
教 梶 原 直 美 (宗教主事)

---

7月13日(木) 神 大 野 至 (神学研究科M1)  
文 音楽チャペル ハンドベルクワイア  
社 学期末にあたって 難 波 功 士 (社会学部長)  
法 音楽チャペル 聖歌隊  
商 浦 野 充 洋 (商学部助教)  
国 Chapel in English Eun Ja Lee (宣教師)  
総 村 瀬 義 史 (宗教主事)  
聖和 JAZZ礼拝 竹 中 真 (ジャズピアニスト)

---

# 憲法の授業を通じて平和を語る

長 岡 徹

日本国憲法の講義で憲法9条を扱っている。事柄が戦後日本の憲法政治の最重要問題である上に、安倍首相が来年の通常国会で憲法改正を發議すると言ったこともあって、授業で学生に何を考えさせるのか悩ましい。

9条は非現実的だ、アメリカの押し付けだ、詫び証文だと言われながら、なぜ定着したのか。あの戦争を生き永らえた人々の切ない思いが、底流にあったのだろう。授業資料にはいくつかの資料を載せているが、憲法学の先達、作間忠雄氏の一文は必ず音読している。

1934年に学徒出陣した当時、戦局はすでに決定的に非勢であった。そういう状況の下で私たちは真剣に自分たちの運命について考えた。その後、戦闘機のパイロットとなり、死に直面しながら訓練を受け、次男と三男だけが特攻に選ばれた。その一人が「おれは英霊なんかになりたくない」とひそかに漏らしたとき、私たちの結論は次の通りであった。「この不法・無謀な戦争には反対であり、戦争は直ちにやめるべきである。しかし、それができなければ、今はただ親兄弟、同胞を守るために死ぬほかはない」「もし日本民族が全滅しなければ、生き残った人たちが協力して今までと違う日本を造って欲しい」。……当時の戦争指導者とその追従者を除けば、圧倒的多数の兵士は戦争の「犠牲者」であったとしかいえない。兵士の遺族もまた同様である。しかしそれは決して「犬死に」ではない。まして断じて「侵略の加担者」ではないのである。彼らは「日本国憲法」に化身して、平和日本の礎となった、と私は確信している。

(1993/09/11 朝日新聞 朝刊 5ページ)

とはいえ、戦争を知る世代は姿を消しつつある。憲法は70年、自衛隊も発足以来60年以上が過ぎた。自衛隊のいる現実に憲法を合わせるべきなのだろうか。9条は空文化したとか、規範として機能していないとかの主張は、60・70年代には憲法学界でも実は珍しくはなかった。しかし、自衛隊の海外での活動が常態化し、また米軍の後方支援部隊であることが制度上明らかとなった90年代以降、政治を拘束する規範としての9条の力が、逆に注目されている。9条が、自衛隊を戦わない組織にしてきたのだ。

安倍首相の日程表によれば、この1・2年が平和主義の転換点になりそうだ。学生とともに考える、そのために何ができるか。不精な私なりに探っていきたい。

(法学部教授)

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。(17:50～18:20 1405教室)

7月主題:学期末を迎えて、夏休みを前に

7月13日(木) Jeffrey Mensendiek (宗教センター宗教主事)

7月20日(木) 舟木 讓 (宗教総主事)

●関西学院会館の日曜礼拝

授業期間中の第二・第四日曜日(原則)に、教職員と学生有志による礼拝が行われます。どなたでも参加できますのでどうぞお越しください。

7月23日(日)10:00～11:00

関西学院会館ベーツチャペル

●秋の献血週間のお知らせ<西宮上ヶ原キャンパス>

宗教総部献血実行委員会では、秋の献血週間を実施します。提供していただく血液は、兵庫県赤十字血液センターでの検査を経て医療現場に届けられます。皆様のご協力をお願いします。

期 間: 10月2日(月)～6日(金)

受付場所: 吉岡記念館ラウンジ

主 催: 宗教総部献血実行委員会

●関西学院チャペルオルガニスト秋の発表会

各学部のチャペルで奏楽を担当するチャペルオルガニストはじめレッスン生たち49人が練習の成果を披露します。パイオルガンに関心のある方、そしてランパス記念礼拝堂に入ったことのない方もお気軽にお越しください。演奏中以外は入退場自由です。

と き: 10月7日(土)10時～16時

ところ: ランパス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

指導者: 太宰まり、能島亜未、坂倉朗子、西山聡子

主 催: 宗教センター

●夕べの祈りatランパス～テゼの音楽とともに～

ろうそくの光を灯して、テゼの歌を歌いながら、皆でこころ静かに過ごす夕べの祈りのひとときです。どなたでもご参加ください。

第3回 10月19日(木) 18:30～20:00

第4回 1月11日(木) 18:30～20:00

ところ: ランパス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

主 催: 夕べの祈り準備会(学生有志)

協 力: 関西学院宗教学活動委員会

●CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

●使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

●盲導犬育成のためご協力お願いします

関西学院宗教学活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。

\*\*\*\*\*

●春学期の「チャペル週報」は本号が最終号となります。

授業期間中毎週月曜日発行の本紙には、各学部のチャペルスケジュールほか、教職員によるエッセイなどを掲載しています。この欄は執筆者のお人柄や読者へのメッセージに触れることが出来る場です。各学部のチャペルとともに、あなたの心に何かを残すことができれば幸いです。秋学期の発行は9月20日(水)からです。よい夏休みを!